The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	哲学対話@洛星高校 洛星高校講座「哲学」2006年度前期・後期講座内容
Author(s)	
Citation	臨床哲学のメチエ. 2007, 16
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/5286
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

哲学対話＠洛星高校

臨床哲学研究室が洛星高校で「哲学」の講座を開講するようになってから、今年度で３年目になります。今年度も、紀平、樫本、高橋が主なメンバーとなり、全 10 回の授業を担当しました。今回は、一昨年、昨年のように豪華（?!）ゲスト陣の力を借りず、コーディネーターがほぼすべての授業を行い、議論の進行も行いました。

今年度は、ただ議論をするだけではなく、哲学的に考えを深め、議論するとはどういうことなのか、“良き”議論とはどのようなものなのかを、受講者一人一人が考え、実行することができることを目標にして、プログラムを組みました。議論はいつものように、楽しく盛り上がりましたが、そのなかでこうした目標が果たされたかどうかは、講師陣の反省、振り返りや、学生達の感想を読んでみていただければと思います。

洛星高校　講座「哲学」 2006 年度　前期・後期講義内容

前期	第１回 4/22	オリエンテーション 紀平・高橋・樫本	今年度の授業計画の説明と講師陣の紹介。その後、二人一組になって、互いにインタビューし相手のことを紹介してもらう。紹介項目は相手の人が気になっていること、どんなテーマでみんなと話し合いがしたいかなど。
	第２回 6/10	哲学的に考える　入門編① 判断、立論を吟味する 紀平・高橋・樫本	「哲学する」ことの基本として、言葉を定義し、飛躍のない立論をすることの重要性を説明し、批判的思考力を試すために、一問一答式の問題に皆で挑戦した。参考にしたテキストは野矢茂樹著、『論理トレーニング 101 題』。
	第３回 6/17	哲学的に考える　入門編② ソクラテスの対話ゲーム（１） 紀平・高橋	去年度も行ったソクラテスの対話ゲームを行う。学生達に三人一組でソクラテス役、若者役、記録役に分かれ、ソクラテスと若者の問答を演じてもらう。去年よりも苦心していたグループが多かったような気もした。
	第４回 6/24	哲学的に考える　入門編③ ソクラテスの対話ゲーム（２） 本間・高橋・植田	前の回の対話ゲームを振り返り、哲学的に議論するとはどういうことなのか、どういう点に気をつければいいのか、その難しさとは何かについて議論した。
	第５回 7/8	哲学的に考える　入門編④ 哲学的に考えるとは？ 紀平・高橋・樫本	野矢茂樹の対話編『「人生は無意味だ」ってどういう意味』を読んで全員で議論。最後に前期全体を振り返って、哲学的議論とはどのようなものだと思うかを皆に意見をだしてもらいまとめ。 最初の対話編は内容が難しいという声が何人かから聞かれた。
後期	第１回 4/22	哲学的議論をしよう① 問いをつくる 紀平・樫本　（栗栖先生）	前期の内容を振り返った後、後期に議論したいテーマを決め、三つのグループに分かれて、それぞれのテーマを問いの形にした。
	第２回 4/22	哲学的議論をしよう② “延命に価値はあるのか” 紀平・高橋・樫本	学生達が出した問い“延命に価値はあるのか”について議論する。延命とはどういう事柄で、この問いが誰にとっての価値を問題にしているのかが議論の中心になった。
	第３回 4/22	哲学的議論をしよう③ “人類にとって戦争は必要か” 紀平・高橋・植田　（栗栖先生）	学生達が出した問い“人類にとって戦争は必要か？”について議論した。補助テキストは加藤尚武『戦争倫理学』。
	第４回 4/22	哲学的議論をしよう④ “救い”について 高橋・植田	“救い”について、短いコント（いとうせいこう作、『絶望居士のためのコント』より抜粋）を朗読してもらった後、全員で議論した。
	第５回 4/22	後期の議論を振り返って 紀平・高橋・植田	後期の自分たちの議論を振り返って、よかった点、反省すべき点などをあげて話し合った。